



園長だより


令和6年7月1日発行

ありんこ親子保育園

園長 中嶋 悦子


先日、今年も無事に作品展が終わりました。子どもたちのやりたいことを出し合って作り上げた「トトロの世界」は、夢いっぱいの子どもの世界でした。うさぎ組は、雨の夜にバス停でトトロがいる場面、きりん組は、さつきとメイのお家と、めいが穴に落ちた大きなクスノキ。ぞう組は、穴の先に寝ているトトロ。部屋の奥には猫バスを作りました。印象的な場面ばかりではなく、まっくろくろすけがいたるところにちりばめられていたり、寛太やおばあちゃんがこっそりいたり、今年作品展はトトロの世界が現実になったかのような素敵な作品ばかりでした。

ありんこ親子保育園のメイン活動の一つである製作・造形遊びには、様々な知恵の宝庫が詰まっている活動です。幼児教育には欠かせない空き箱等の「制作活動」と「造形遊び」についてご紹介したいと思います。



子どもにとっての宝物とは

ありんこ親子保育園では、ご家庭から空き箱や牛乳パックなどの廃材をご寄付いただいております。いつもありがとうございます。いただいた廃材は他にも、プリンカップ、ラップの芯、トイレットペーパーの芯、段ボール、包装用クラフト用紙などがあり、大きなケースなどに入れて、いつでも制作ができるようにしてあります。それらが届くと子どもたちは大喜び。まるで空き箱などの廃材が“宝の山”のように見えます。そんな宝の山から、子どもたちは自分だけの“宝物”を作り出していきます。自分で作ったもので遊ぶのは、達成感や充実感を味わうことができる貴重な体験です。この達成感や充実感が、実は子どもにとって大切な宝物なのですね。柔軟な頭と心を育てるためにも、幼児期にたくさん取り入れたい遊びです。



創意工夫ができる遊び

幼児期の遊びの中で、空き箱制作は無くてはならない幼児教育の一環と言われます。「空き箱制作は、行事よりも大事」「空き箱制作を行っていない園は選ぶな」と言う専門家もいるほどです。

ありんこ親子保育園の保育士は、令和元年度より千葉大学教育学部附属幼稚園の公開研究会に参加し、定期的に自園でも保育研究会を行っています。制作活動は研究テーマにもなっています。

幼児期は、自分で考えて創意工夫するという体験を増やし、知恵や心の土台を育ててほしい時期でもあります。制作や造形遊びは、その構造からとても頭や手先を使った創意工夫する遊びなのです。創意工夫とは、「今まで誰も思いつかなかったことを考え出し、それを行うための良い方策をあれこれ考えること」「創意」は新しい思いつき、今まで考え出されなかった考え。「工夫」は物事を実行するために、よい方策をあれこれひねり出すこと（三省堂 新明解四字熟語参照）とあります。

子育て論では、「子ども時代に考える癖を身に付けさせる」と言われますが、大人の指示・命令が多くなれば、子どもは自分で考えることが少なくなると、指示待ち状態になることがあります。あれこれ指示・命令するばかりではなく、ある程度のことは大らかに見守り、どうすればいいか、何がしたいのかを自ら考える機会を幼児期から増やすことがとても重要です。



子どもは遊ぶのが仕事

「保育園では、遊んでいるだけに見える」とよく言われます。反対から言えば、幼児期にとって遊びは最も大切な活動です。「子どもは遊ぶのが仕事」と言われますように、この「遊びながら学ぶ時期」にどのような遊びをしたかがとても重要になってきます。子ども時代は大人になるための準備の時間ではなく、子どもとして思う存分楽しむための時間なのです。子どもの頃に、自然の中や友達と遊んだ経験の少ない人が、大人になってから子ども時代と同じように遊ぶのは、とても難しくなるかもしれません。そして、この子ども時代の遊びや自然体験が、「見えない学力」を言われる「理解力」となり、小学生以降の「見える学力」や「応用力」に繋がっていくのだと思います。

例えば、船を作りたいと考えたとします。制作遊びでは、自分で欲しい材料を一から探すことから始めます。水に浮かぶトレーが欲しいと思ったときに無かった場合、今ある材料の中から代用できるものを探します。牛乳パックがあれば、縦に半分に切り船の形にして水に浮かぶことを知り（理解し）、創意工夫して代用させます。この「代用する」ということが重要で、材料がないからできない。だからやりたくない。となってしまうと、応用が利かなくなってしまうのです。

社会に出ると、自分で考えて、代用したり、応用したりすることが求められる場面にたくさん遭遇します。この基礎は、すでに幼児期に身に付けていくのかもしれませんがね。

持ち帰った空き箱制作の処分方法

毎年、保護者様から質問されることは、「持ち帰った空き箱制作は、どうやって処分すればいいですか？」というものです。捨てられずに溜まっていく。ゴミになる。何を作ったのかわからない。など、様々な悩みもあるかとは思いますが、子どもが一生懸命に楽しんで作った作品ですから、大人目から見たら意味のわからないものやゴミに見えても、勝手に捨てたり壊したりせず、話を聞いて褒めてほしいなと思います。

処分方法は、年齢によっても違ってきますが、2～3歳児さんでは、忘れたところに処分するでもいいと思います。4～5歳児さんは、気に入っているものだけ取っておくということでもいいですし、話し合っただけ処分することでもいいと思います。保護者さんの中には、子どもが作った作品を写真に撮っておいた方もいらっしゃいました。写真を撮っておくことで残すことができますね。いいアイデアです。

それぞれのご家庭で工夫していただき、お持ち帰りになった時には、がんばって作ったことを大いに褒めていただければ幸いです。



作品展、みんなよく頑張りました！

